



「平等にある時間をしっかり活かしたか」自身への問いかけが次の新たな飛躍へー。

式辞

寒い冬の季節が終わろうとしています。やわらかな日差しに、ようやく春の訪れを感じる今日この頃です。時代が移り、社会がどんなに変わっても自然の営みは例年と変わってまいります。今年もまた、希望と輝きに満ちた春が巡ってまいります。

この佳き日、能登町長持木一茂様をはじめ、たくさんの方の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに第7回卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことを衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様には、この三年間、本校の教育活動につきましても格別のご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。お子さまの卒業の日を迎えられました。本当におめでとうございます。

ただ今卒業証書を授与した卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは「自主・協調・創造」の校訓のもと、本校の様々な教育活動の中で人間力を育成しました。その第一の特色は手厚い学習指導でした。個々に応じた進路指導や学び直し教材を利用した学習指導、全員参加の土曜スクール、昼休みや放課後を活用した個別指導、そして校内の公営塾である鳳雛塾などでの学習機会でした。第二に地域貢献がありました。

地域のひとともに行うボランティア活動やイベントなどの地域行事へ積極的に参加し、地域の自然・文化・産業を学び、地域社会の創造発展に貢献する活動がありました。「能登町のスポーツ」となっているソフトテニス、そしてアーチェリーとともに多くの全国大会に出場を果たしてくれました。これらの教育活動には時間を惜しみ熱心に教え導いてくれた先生方、多く行事や活動にこころよく協力してくれた地域の方々、そして様々な活動に理解を示してくれた保護者、家族に感謝を忘れてはいけません。また、「能登高校を応援する会」の多くの地域の皆さんの支援があることも感謝しなければなりません。

私が話をする機会があるたび、語りかけてきたことがあります。それは、「平等にある時間を大切にし、しっかりと活かしたか」というものでした。卒業生の皆さんは、日常の授業はもとより、行事や部活動に力を存分に発揮して、お互いに高めあってきたことと思いません。しかし、いま一度この三年間の高校生活を自分なりに問い直してもらいたいと思います。本校に入学したときの目標は達成できましたか。高校時代にやろうと思っていたことができたか。勉強に打ち込み、力をつけましたか。部活動は自分を成長させてくれましたか。高校生活は充実したものでしたか。そして、これからの生きていく新しい目標をこの能登高校で創りましたか。その答えは一人ひとり違うことでしょう。卒業にあたり今ある自分をもう一度見つめ直し、問い直すことよって、次の新しいステージへと飛躍してもらいたいと思います。

さて、最近の若者は指示待ちの傾向があるといわれます。インターネットが普及した社会では、いくらでも情報を簡単に得ることが出来ます。しかし、勘違いしないでください。この検索して得られる情報は、既に答えが存在するものなのです。「検索すれば答えが得られる」ということが指示待ちの姿勢そのものなのです。AIの技術革新が進み、2年後の東京オリンピックには自動運転の車が東京を走るといわれています。皆さんがこれから生きていく社会は、国際化、科学技術の進展、産業や経済構造の高度化、価値観やライフスタイルの多様化など、急速に変化し複雑化していきます。これからは何が起るかわからない、前例のない常に新しい課題が出てきます。新しい課題は一所懸命に考えても、検索しても出てくるものではありません。それは皆さんが様々な局面に出くわす中で見つかることになりません。別の表現をすれば、課題が与えられた瞬間に課題の解決に向かわなければならぬということです。そして、課題が見つかった以上、あとはそれまでに培った技術、技量によってこの課題とどう向き合い、近づいていくかが大切になるのです。

このように前例のない課題が山積する社会へのスタートとなります。そこで、皆さんに大切にしてほしいことがあります。「人間の究極の幸せは、『愛されること』、『愛されること』、『役に立つこと』、『人に必要とされること』という事です。もちろん、『愛される』、『褒められる』、『役に立つ』、『人に必要とされる』はあくまでも結果であって、それを目的にするわけではありません。大切なのは、本気で物事に取り組む、本気で向き合うことです。しかし、いくら本気で取り組んでも、それが自分本位の考えに基づいたもの、あるいは自分の凄さを自慢する高慢なものであればなりません。人の幸せのために、人の喜びのために、みんなの幸せのために、社会の発展のために、自分のエゴを満たすためでなく、あるいは自分のエゴにとらわれることなく、本気で取り組み本気で向き合うことです。

3年1組代表 石上 竜雅くん 3年2組代表 笹野 倫代さん 3年3組代表 大町 陸くん



平成30年三月二日
石川県立能登高等学校
校長 平野 浩彦



信頼し合い、最後まで粘り続ける**仲間**に助けられた日々。

答辞

春を告げる風が海を渡り、雪解けの光のなかですべての命が輝き始めた今日、私たち七十五名は、能登高校七期生として、卒業の日を迎えます。

校長先生をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様、本日は私たちのためにすばらしい卒業式を挙げていただき、本当にありがとうございます。

瞬間に過ぎ去った三年間。振り返れば、幸せな日々でした。

一年生の頃は、上級生に遠慮して力を出し切れませんでした。が、二年生では、「先輩を超える」という気持ちで、学年全体が奮闘されたのは、三年生の体育祭。みんなで最後まで粘り続け、逆転優勝を成し遂げました。この学年で本当によかったと感動した瞬間です。

仲間を信頼できたから、就職・進学試験も乗り越えられたのだと思います。プレッシャーに潰れそうになっても、努力が認められず悔しい思いをしても、学年みんなで闘うことができました。

アーチェリーやソフトテニスをはじめとする部活動の活躍も、私たちの自慢です。能登高校初のインターハイ団体出場を勝ち取った女子ソフトテニス部。抱き合う選手の姿に胸が熱くなり、「あなたたちは私の誇りだよ」と声をかけたくなりました。どんなときにも周囲への感謝を忘れない選手たちを、私は心から尊敬しています。

こんな充実した学校生活を送れたのは、地域の皆さんをはじめ、多くの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございます。

お世話になった先生方へ。先生方は、私たちのどんな小さな悩みにも気づいてくれました。時に厳しく、時に優しく、熱い指導をして下さった宮澤先生。一人ひとりになり切つて、将来を一緒に考えて下さった道端先生。仕事から逃げずに自分の身は自分で守れと教えて下さった山下先生。不安になつて前を向けなくなった時、「やってきたことに自信を持って全力を尽くしなさい」と先生が励まして下さったから、胸を張つて最後まで戦い抜くことができました。

在校生のみなさんへ。この一年間、辛い出来事も一緒に乗り越えてきたよね。本当にありがとうございます。卒業しても、私たちはみんなを応援しています。困難に立ち向かえるみんなの力を信じて、この能登高校の未来を託します。自分たちだけの花を咲かせ、能登高校の新たな歴史を築いていってください。

いつも寄り添ってくれた家族へ。辛い時にそっと見守ってくれたこと、間違っている時に本気でしかりつけてくれたこと。ずっと「ありがとう」って言いたかったけど、素直になれなくてごめんね。

人間関係で悩んだ時、「ぶつかったもいから思ったこと言えよいいじゃん。私はいつでもあなたの味方だよ」とお母さんが言ってくれたから、勇気を出すことができました。

お母さん、私にとつて、お母さんは誰よりも大切な存在です。ずっと反抗的だったけど、ここまで育ててくれてありがとう。私はお母さんの子どもで本当によかった。

一緒に走り続けてきた卒業生のみなさんへ。私たちは負けず嫌いで生意気だったけど、やるべきことはきちんとやる学年だったね。行事で底知れない団結力を発揮してきた31H。一人一人違った色を持って輝いていた32H。男女関係なく仲が良くて元気だった33H。

放課後の教室で悩みを相談したり、好きな食べ物や、テストの点数、世界征服について大はしゃぎで話したり。受験前には、「自分らしく頑張れ」って背中を押してくれたよね。ぶつかつて、助け合つて、一緒に泣いて笑つて。みんなと会えなくなることが私には信じられませんでした。離れたくない、そんな気持ちがあふれてきます。やっぱりみんなとじゃなかったら、ここまで来れなかったよ。当たり前のように過ぎてきた日々は、私の人生にまぶしく輝く、かけがえのない時間でした。私はみんなが大好きです。

別れは悲しいですが、支えて下さった人々への感謝を胸に、私たちは自分たちが歩むべき道を切り拓いていきます。最後に、天国にいる大切な友だちへ。あなたたちを失って、私たちは足元の地面が崩れ落ちるよ。



うな悲しみを感じ、二度と立ち直れないとさえ思いました。でもこれだけは言えます。私たちはあなただけのことを決して忘れないよ。その笑顔も、ちょっとした癖も、ずっとずっと覚えていくからね。

今、世界では、無差別な殺意や理不尽な暴力によって、多くの人の命が奪われています。打ちのめされそうにもなりますが、命の尊さを知っている私たちは、恐れず、目をそらさず、必ずこの現実に向かおうと決まっています。

この信念を心に刻んで忘れないことを誓うとともに、私たちに関わってくれたすべての人に感謝の気持ちを表し、答辞といたします。

平成三〇年三月二日
第七回卒業生代表

中村 朱里

送辞

うらかな日差しに春の訪れを感じられる季節となりました。このような佳き日に、卒業生の皆様が、晴れてご卒業を迎えられたことを在校生一同、心からお祝い申し上げます。

校舎から見える見慣れた景色、あたりまえのような日々の授業、仲間との思い出が頭の中を駆け巡り、卒業までの時間が一刻一刻と皆さんの胸に刻まれていくことでしょう。そして、まだ見ぬ新生活に、膨らむ不安と期待で胸がいっぱいになっていることでしょうか。お別れに際して、私たちが在校生の胸にも、先輩方とともに過ごした数々の思い出が蘇ってきます。

皆さんにとって、三年間の高校生活は長く、また短くも感じられたのではないのでしょうか。

自らの進路を切り開き羽ばたいていく先輩方こそ、**憧れ**目指すべき姿

思い起こせば、先輩方は最上級生として、いかなる時でも臨機応変に対応し、私たちが熱心にリードしてくださりました。一番の思い出は、文化祭や体育祭です。先輩方は、進路決定の真只中、時間を見つけて入念な準備をされていましたね。文化祭では展示やステージ発表などの完成度の高さ、合唱コンクールでのクラスの団結力の強さに在校生一同圧倒されました。体育祭では普段、クラスを超えて交流が少なく、学年で一つのチームを団結させる力を見せてくださいました。最初から最後まで手を抜かないそんな先輩方の姿は、私たちの憧れです。部活動でも、全員で信頼しあい最後まであきらめないこと、自分を限界点まで高めることを教えてくださいました。

進路決定においても、自らの進路を切り開いてこられました。金沢大学、富山大学をはじめとする国立大学に五人も合格され、就職においても国家公務員合格、地元企業の内定を勝ち取るなど、たゆみない努力で素晴らしい成果をあげておられます。今後も、様々な経験を積み重ねて自分を磨き、常に挑戦する心を忘れず、大きく前進してください。

希望と夢を抱いて新しい世界に羽ばたこうとしていらっしゃる先輩方。卒業式を終えると、一人一人の新たな長い旅が始まります。これから始まる旅の途中で、大きな苦労や困難にぶつかることもあると思います。

ですが、今まで積み重ねてきた知識や経験に自信を持ち、それを礎にして、更なる高みへと飛躍してください。私たちが在校生も先輩方から素晴らしい伝統を受け継ぎ、頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、ご卒業されます皆様により一層のご活躍とご健康をお祈りし、送辞と致します。

平成三〇年三月二日

在校生代表

上野 烈豪

